



ミャンマーの中央平原を縦断するヤンゴン・マンダレー鉄道

ヤンゴン・マンダレー鉄道整備
事業フェーズ1 CP101工区
(バズンタウン～バゴ)の内、土工工事
(ミャンマー)

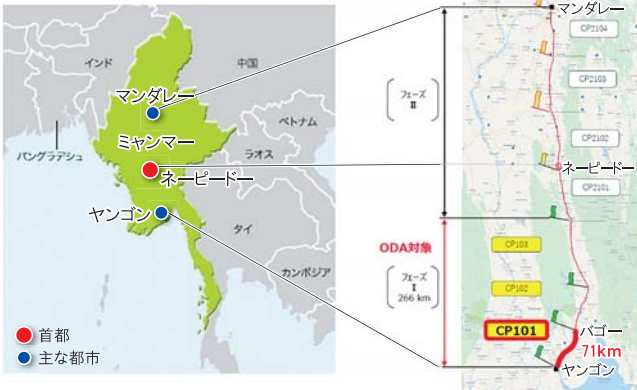
フジタ

ミャンマーの中央平原を縦断するヤンゴン・マンダレー線は英国植民地時代に建設された全長約620kmの鉄道だ。長年にわたって運行されてきたが、不十分な維持・管理や鉄道関連施設・設備の老朽化により列車走行の速度低下・遅延・脱線事故が生じるなど、安全かつ安定した列車運行が難しい状況となっていた。

地域に望まれる鉄道開通



トウチャンガレイ駅



プロジェクト位置図

今回のプロジェクトでは日本の支援の下、既存鉄道路線の老朽化した施設・設備の改修、新規車両の調達を実施した。ミャンマー最大の都市ヤンゴン側から約260kmをフェーズ1とし、それを3工区に分割。ヤンゴン側に最も近いCP101工区(約71km)のうち、土工および軌道工事をフジタが担当した。ただ、その工事は簡単なものではなく、準備段階から課題が多く発生

老朽化解消し安全・安定を実現

した。例えば、ミャンマー国内では大規模な整備を行える軌道工事専用の機械の手配が難しく、日本をはじめ海外より輸入しなければならなかった。軌道改修の実作業では現在の鉄道運行を継続しながらの営業線近接作業となり、保線部門との細部までの調整が必要となった。さらに工事期間中、新型コロナウイルス感染症のまん延やミャンマー国軍による非常事態宣言の影響で工事中断、行動制限などが発生した。こうした大きな制約を受けながらも、それぞれの課題を解決し、高い品質で2024年に引き渡した。輸送能力増強を図ることと同国の経済発展に寄与する事業として、地域に望まれる鉄道の開通を無事に果たした。



河川横断部の橋梁

概要

- ▷実施者＝フジタ
- ▷実施国＝ミャンマー連邦共和国
- ▷実施都市・地区＝ヤンゴン～バゴ
- ▷プロジェクト関係者＝ミャンマー国有鉄道(発注者)、オリエンタルコンサルタンツグローバル・日本コンサルタンツ・パシフィックコンサルタンツ・トニーニチコンサルタンツ・日本工営共同企業体(設計者)
- ▷実施期間＝2019年6月～24年11月

